

中で多くの人の前でスピーチをすることになれば」というのが本来の意味なのです。

「前置詞 + Ving ~」のマインドは次の法則を知っておくと便利です。

法則

▶▶▶ 「~することに関しては」「~するときには」

- 「~するとすぐ、~した時点で」 **on + Ving ~**
- 「すでに~してきたこと、または、習慣上~していることに関しては」「実際に~してきて」 **in + Ving ~**
- 多くの動作・行為の中で「これと絞り込んで~するということに関しては」 **at + Ving ~**

onについての詳しい解説は第7章にゆずりますが、at + Ving ~ が「行為・動作の絞り込んだ一点」を意味するのに対して、on + Ving ~ は「行為・動作の連続」を意味します。

ですから、

I am poor **at speaking** English.
(私は英語を話すのが苦手だ)

は「いろいろと勉強する対象の中で、英語を話すことにかけては」ということなのです。これに対して、

On entering the room, I saw Mary.
(部屋に入ると、メアリーがいた)

とやると、on + Ving ~ が「部屋に入る」行為と「メアリーを見る」

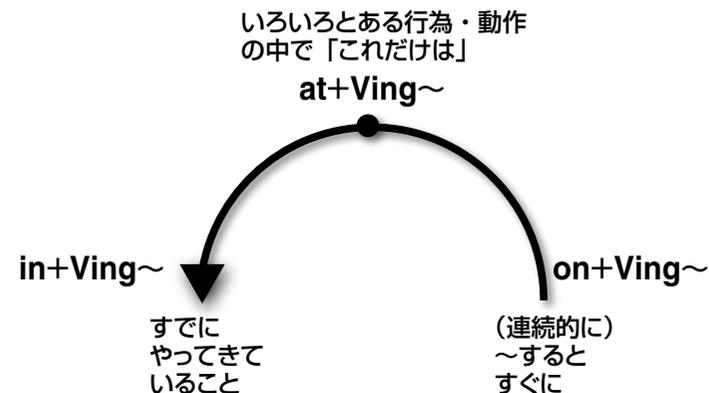
という動作が時間的に連続していることを意味し、「部屋に入ると、連続してメアリーを見た」→「部屋に入ると、(すぐそこに)メアリーがいた」と訳せることとなります。

ですからonの方がatよりも、連続または動的な意味を強めることとなります。

これに対してin + Ving ~ は「すでにやったことがあることに関しては」や「すでに心にあることに関しては」を意味します。

I am interested **in studying** Chinese.

とやると、「すでにやってきた中国語に関しては」「これまでやった経験がある中国語に関しては」興味があることとなります。



 [4] 因果関係と at
 

それでは、次のようなatがどうして「聞いて」の意味になるのでしょうか？

I am very pleased at the news.

(私はそのニュースを聞いて大変うれしい)

「その知らせを聞いて」がどうしてat the newsなのかといえば、「うれしい」という結果は「そのニュース(知らせ)を聞いたのとほぼ同時であった」という意味からなのです。つまり、「そのニュースを聞いたとき」と「うれしい」という時が「同時である」からatが使われているのです。

「原因」と「結果」がほぼ同時に起こりうる場合は

「結果を表す状態 + at ~」

の形で用いるのです。それがI am very pleased at the news = I was very pleased when I got the news.のマインドです。

ですから、「見て、会って、聞いて、知って、同時に怒る、うれしい、満足する」など、「こうするとあなる」という因果関係が同時(またはほぼ同時に)に起こる文ではatを用います。

She was angry at his behavior.

(彼女は彼の行動に腹を立てた)

この場合、彼の行動を「見て」、結果が「怒る」となるので、「彼が行動をした」のと「彼女が怒った」のはほぼ同時と考えます。

I am surprised at his sudden death.

(私は彼の突然の死を知らされて驚いている)

これも「驚いた」という「結果」と「彼が突然亡くなった」という「原因」とがほぼ同時であることを表すので、at his deathに「彼の突然の死を知らされて」という意味が出てくることになります。

しかし、そこでどうして「知らされて」という受け身の意味が出てくるのかということになりますが、それは次の法則によるものです。


法 則

▶▶▶ 受け身文と at

「結果を表す文」が受け身形の文である場合は、「at + 名詞」も「受け身」の意味が出てくる。

この法則に照らせば、この項の冒頭の文I am very pleased at the news.も、そのニュースを積極的に聞いたのではなく、誰かから聞かされた、つまり、知らされたのであることがわかります。

類例をあげれば、

I was very pleased at your coming.

では、I was very pleasedは「私は大変うれしかった」と訳せるのですが、形の上で「be動詞 + 過去分詞」なので、ここでのat your comingは「君が来てくれたので」「君が来てくれたときに」のように「~してくれて」と受け身の意味を視野に入れてとらえた方が望ましいのです。